

「縮小」じゃない未来を

藤岡市立北中学校

二年 本間 一佳

苦しい時でも、嫌だなと思った時でも、毎日毎日結果を求めて努力する。そして、試合で満足のいく結果が出せたとき、この競技を続けてきて良かったと心から思う。それが、スポーツを本気で続ける意味であり、一番の楽しさだと私は思います。でも、もしその努力が十分にできなくなったら、もし夢の舞台を奪われたら、あなたは どう思うですか。今、マイナースポーツといわれる競技を選び、続けてきた中学生が、部活動で頑張っている中学生が、その危機に直面しています。

二〇二七年からマイナースポーツ九種目の全国中学校体育大会が廃止されることが決定しました。私が六年間続けていた新体操も、その一つになっています。私はクラブチームに所属し、その他にも大会に出る機会がありますが、

部活動で頑張っている選手は目標とする大会がなくなってしまいます。夢の舞台を失ったスポーツは始める人が減るでしょう。競技人口が少ないスポーツをやっている人だって、人気スポーツをやっている人だって、同じように努力しています。新体操は何時間も何時間も練習するのに試合は一分三十秒で全てが決まる競技です。その一瞬が決まったときの喜びのために私は新体操を頑張っています。「教員の負担軽減」という目的や「少子化」という理由も理解できますが、一方的に廃止するのは選手たちの思いを軽視しているように感じませんか。

また、大会だけではなく、普段の活動時間も縮小する動きがあります。現在私の学校では多くても二から三時間、少ない時は一時間程度しか活動していません。それに対し、私の通うクラブチームでは、週に六日、三時間程度、休日には六時間の練習を行うことも多くあります。このような大きな差があつては、少ない時間でどれだけ努力しても競技力に違いが出てしまいます。実際、柔軟性、筋力、正確性が求められ、時間をかけた分だけ上達する新体操では、個人種目で県大会に出場できる選手は数えるほどしかいま

せん。上位に上がってくるのはクラブチームの人がほとんどです。これで「みんな平等な機会がある」と言えるのでしょうか。「上達したいならクラブチームに行けばいい」と思う人もいるかもしれません。しかし、毎日の送迎、高い月謝、その他にも様々なサポートが必要となり、沢山の負担がかかってきます。そのような条件を満たせる人がどのくらいいるでしょうか。私も、母、父、祖母をはじめ、色々な人にお世話になりこの生活ができています。だから、もし部活動で十分な練習ができれば、平等とはいかないもののその差は縮まり、皆が上を目指し、努力することができるとは思います。今、夢に向かって精一杯努力した経験、試合での成功体験は必ず役に立つと信じています。

では、この状況を改善するためにどうすればよいのでしょうか。私は部活動の形を工夫し、新しい取り組みをしている自治体について調べ、自分なりに解決策を考えました。

私が考えた策として、市町村単位で外部コーチや地域の実業団の選手を各学校へマッチングするという方法があります。休日は直接教えてもらい、平日は動画を撮ってコーチに送り、フィードバックをもらいます。教員は指導者で

はなく責任者として平日の練習に立ち会い、コーチと選手をつなぐ役割だけを担います。この方法なら「教員の負担軽減」「部活動時間の確保」の両方が実現します。ただ、ある程度の予算が必要なことや、地域ごとの格差が生まれしてしまうなどの課題もあるため、まだまだ工夫が必要です。

最後に、部活動が地域に広がっていくためには、私たちの行動が重要であることも知りました。この提案の土台である「応援したい」と思わせる生徒の姿を見せていくことで、地域との信頼関係を築くことが実現への一歩だと考えます。皆が自分の目標を達成できるように工夫して地域全体でみんなのチャンスをつかみましょう。縮小ではない未来を求めて。